

【2学期終業式】 12月21日（金）

2学期の終わりにあたり、「型を大切にすること」「高い志と挑戦する勇氣」について、ノーベル生理学・医学賞を受賞された研究者の言葉をもとに、次のような話をしました。

今年の ASUMIRU 講演会では、日本人として4人目のノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智先生をお招きしました。座右の銘として「一期一会」（出会いを大切にすることのたとえ。茶道の心得を表した語）、信条としている言葉として「実践躬行」（言うだけでなく、実行してみることが大切だということ）、そして「積み重ね つみ重ね またつみかさね」の言葉をいただきました。

さて、今年日本人として5人目のノーベル生理学・医学賞を受賞されたのが、京都大学の本庶佑（ほんじょ たすく）先生 です。

ノーベル賞授賞式が、10日ほど前の12月10日にスウェーデンのストックホルムで行われました。12月10日は、ダイナマイトを発明したアルフレッド・ノーベルの命日です。

本庶先生は、「日本で研究してきた」との思いを込め、持参した自前の黒紋付き羽織はかま姿で出席されました。（通例は、燕尾服で出席します。）

本庶先生の業績は、がん免疫療法で新たながん治療の原理を確立したとこと。一般的ながん治療は、人権講話でお話いただいた工藤房美さんのように、抗がん剤という薬物、放射線療法など、外部からのいわゆる人工的な方法で治療することがほとんどです。がん免疫療法は、生体の持つ免疫機能、生物基礎の授業で学んだ免疫細胞の一つ、T細胞の働きでがん細胞を取り除く方法です。

さて、ノーベル賞の受賞が発表されたのは10月、受賞報告の記者会見で、本庶先生からこんなメッセージがありました。

「教科書に書いてあることを信じない。常に疑いをもって本当はどうなんだろうという心を大切にする。つまり、自分の目で物を見る。そして納得する。そこまで諦めない。」

「教科書に書いてあることを信じない」、私たち教員としては刺激的な言葉でした。

この言葉について、どのように思うのか、と聞かれた日本人として2人目のノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥先生はこのように答えました。山中先生はご存知のようにiPS細胞（人工多能性幹細胞：induced pluripotent stem cell）を開発した研究者です。

「教科書を疑うといことは、教科書の内容を理解しているから疑うことができる。つまり、基礎基本、土台がしっかりしているということ。型がしっかりしているということ。

現在の科学の知見は現時点で解明されていることで、今後新しい技術、方法、装置が開発されれば、塗り替えられることになる。科学の世界は『うそ』『フェイク』である、というわれる所以だ。

したがって、現時点の知見は何か、土台を固めること、型を身につけることが大切。

そのうえで、型を破る、つまり『型破り』だ。型がしっかりしていなければ、それは『形無し』なのだ。本席先生は基礎基本の大切さを伝えたかった」、と山中先生は話されました。

もう一つ、本席先生は賞金をもとに基金を設立すると言われました。その基金で、基礎研究している多くの研究者を支援するとのことでした。

基礎研究に対する思いについて、山中先生はこう話されました。

「本席先生にぜひ良い研究を選んで研究費を補助してほしい。良い研究とは、研究内容も大切だが、一番大切なことは、20年から30年間基礎研究をやり続けることができる、そんな研究者を見極めてほしい」と。

すぐに結果が出るわけではない。生涯をかけて取り組む意欲、意思が大切だ、ということです。

さて、皆さんの多くは大学を含め上級学校に進学を希望しています。入学するためには大学入試という関門がありますが、皆さんは（合格という結果を求め）合格できる大学を選んで受験しようという安全志向になっていませんか。

進学した大学などが、皆さんに何かしてくれると思ってはいけません。皆さんが先を見据え、その大学、短大、専門学校、就職先でこんなことをしたい、こんなことを学びたい、こんなスキルを身につけたい、だからその大学、その短大、その専門学校、その就職先でなければならない、と決めていくことが大切です。

皆さんが自分自身を成長させてくれる場を皆さん自身が選ぶのです。自分が選んだ道だから頑張れるのです。自分の進路について、「このぐらいでいいんだ」という安全志向ではつまらないと思いませんか。「人生二度なし」（哲学者・教育者 森信三の言葉）。高い志と挑戦する勇気を持ちましょう。

さて、2週間ほどの冬休みとなります。今年一年を振り返りつつ、新年には心新たなスタートを切ってください。